

Macaulay2で不変式環の計算(2)

[前回のページ](#)

今回はMacaulay2を使ってDu Val特異点に関する計算をしよう！

不変式環の計算

$SL_2(\mathbb{C})$ の有限部分群による商多様体 \mathbb{C}^2/G に現れる特異点をDu Val特異点と呼ぶ。 $SL_2(\mathbb{C})$ の有限部分群は分類されており、具体的にどの行列で生成されるかも分かっている。

参考文献：[Graham Leuschke 「The McKay correspondence」](#)のp.15

Du Val特異点の座標環を計算してみよう。例として D_4 型を考える。この場合、対応する有限群は以下の二つの行列で生成される。

$$\begin{pmatrix} i & 0 \\ 0 & -i \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 0 & i \\ i & 0 \end{pmatrix}$$

M2で計算するために、以下のように準備をする。

```
i1 : loadPackage "InvariantRing" -- InvariantRingパッケージ
読み込む

o1 = InvariantRing

o1 : Package

i2 : L = toField(QQ[w]/(w^2+1)) -- QQに1の4乗根を添加

o2 = L

o2 : PolynomialRing
```

```
i3 : R = L[x,y]
```

```
o3 = R
```

```
o3 : PolynomialRing
```

次に、群作用を定義し不変式環を計算する。

```
i21 : X1 = matrix{{w,0},{0,-w}}; X2 = matrix{{0,w},{w,0}};
```

```
o21 : Matrix (L[u..w])  $\leftarrow$  (L[u..w])2
```

```
o22 : Matrix (L[u..w])  $\leftarrow$  (L[u..w])2
```

```
i23 : action1 = finiteAction({X1,X2},R) -- 二つの行列で生成され
```

```
o23 = R <- { | w 0 |, | 0 w |  
            | 0 -w | | w 0 | }
```

```
o23 : FiniteGroupAction
```

```
i24 : A = invariantRing action1
```

```
o24 =  $x^4 + y^4 + 2x^2y^2 + 5x^5y + 5xy^5$  -- バージョンに依ってはこのよう  
      L[x + y , x y , x y - x*y ]
```

```
o24 : RingOfInvariants
```

```
i25 : definingIdeal A -- 不変式環を多項式環のイデアルによる商として
```

```
o25 = ideal(u12u2 - 4u23 - u32)
```

```
o25 : Ideal of L[u ..u ]
      1 3
```

最後の計算結果により、このケースの商多様体は、方程式 $u_1^2 u_2 - 4u_2^3 - u_3^2 = 0$ で定義される \mathbb{C}^3 の中のアフィン代数多様体と同型になることが分かった。座標変換

$$x = u_3, \quad z = 4^{1/3} u_2, \quad y = (-1)^{1/2} 4^{1/6} u_1$$

を施すことで、よく知られた D_4 型特異点の式 $x^2 + y^2 z + z^3 = 0$ になる。

演習

1. D_6 型の不変式環をM2で求め、商多様体が $x^2 + y^2 z + z^5 = 0$ で定義されるアフィン代数多様体と同型となることを確認せよ。
2. E_6 型、 E_7 型でも同様に確認せよ。（少し計算に時間がかかるかもしれない。）

爆発の計算

まず、以下のコードをコピーしてM2に貼り付けてEnterキーを押そう。

```
affineCharts = S ->(
  -- affine charts of a blowup without simplification
  T := (flattenRing S)_0;
  U := ambient T;
  I := ideal T;
  varsOfS := apply(flatten entries vars S, i->sub(i,U));
  apply(varsOfS, i-> U / (I + ideal(i - 1))) );

isBlowupSmooth = S ->(
  -- checks if the Rees algebra of an ideal is smooth.
  all(affineCharts(S), isSmooth2) );

isSmooth2 = R -> (
  -- checks if an affine ring is smooth
  if (isPolynomialRing R) then true else
  (
    S := ambient R;
```

```

    I := ideal R;
    (ideal singularLocus I) == ideal(1_S)
  )
);

isBlowupNormal = S ->(
  -- checs if the Rees algebra of an ideal is normal.
  all(affineCharts(S),isNormal)) ;

```

これらは、安田が以前に自分の研究用に書いたMacaulay2関数の一部で、[こちら](#)で公開している。（ただし、公開している関数「affineCharts」は動かなくなっていたので、「affineCharts2」を今回「affineCharts」と置き換えた。「isSmooth」は同名の組み込み関数とバッティングするので、「isSmooth2」に変更した。）

例として、関数「isSmooth」が何をしているか説明する。入力として R を受け取ると（ R は多項式環のイデアルによる商環を想定している）、まず R が多項式環かどうか判定し、多項式環なら `true` を返す。 R が多項式環でない場合は、 R を定義するのに使った多項式環を S 、イデアルを I と置き、`ideal singularLocus I` でsingular locusの定義イデアルを求め、それが自明なイデアル `ideal(1_S)` と一致するかどうかを確認する。M2での関数の作り方の詳細は、例えば「[Macaulay2による計算代数幾何](#)」の5.1章「関数を作ろう」を参考にすること。関数を自分で作ると、より複雑な計算もできるようになる。

さて、 A_2 特異点の原点での爆発を計算してみよう。

```

i5 : R = QQ[x,y,z]/(x*y-z^3)

o5 = R

o5 : QuotientRing

i6 : A = reesAlgebra ideal(x,y,z)

o6 = A

o6 : QuotientRing

```

スキーム論を知っている人向けの説明：環 R のイデアル I に対し、次数付き環 Rees 環が以下で定義される。

$$A := R[It] = \bigoplus_{n \geq 0} I^n$$

この Proj が Spec R のイデアル I による爆発となる。 I の生成元 f_1, \dots, f_l を固定すると、 $R[x_1, \dots, x_l]$ の商環 $R[x_1, \dots, x_l]/J$ として書ける。爆発は l 個のアフィン開集合で覆われ、各 $i \in \{1, \dots, l\}$ に対し、

$$B_i := R[x_1, \dots, x_l]/(J + (x_i - 1))$$

がアフィン開集合の座標環となる。

A_2 特異点の原点での爆発が非特異かどうか確認する。

```
7 : isBlowupSmooth A
o7 = true
```

この計算で A_2 特異点の原点での爆発が非特異で、特異点解消を与えていることが分かった。

各アフィン開集合を計算すると：

```
i8 : affineCharts A
      QQ[w ..w , x..z]
      0 2
o8 = {-----}
      3                                     2
      (- z + x*y, w x - w y, w y - w z, w x - w z, w z - w )
      1 2 0 1 0 2 0 2
      -----
      QQ[w ..w , x..z]
```

```

                                0  2
-----
      3                                2
(- z  + x*y, w x - w y, w y - w z, w x - w z, w z - w y
      1      2      0      1      0      2      0      2
-----
                                QQ[w ..w , x..z]
                                0  2
-----
      3                                2
(- z  + x*y, w x - w y, w y - w z, w x - w z, w z - w y
      1      2      0      1      0      2      0      2

o8 : List

i9 : singularLocus o8_0 -- 一つ目の座標環のsingular locusを計算

o9 = -----
      3                                2
(- z  + x*y, w x - w y, w y - w z, w x - w z, w z - w y
      1      2      0      1      0      2      0      2

o9 : QuotientRing

i10 : minimalPresentation o9 -- minimalPresentationで環の表示を

      QQ[]
o10 = ---- -- singular locusは空集合
      1

o10 : QuotientRing

```

爆発の例外集合は以下のように計算できる。

```
i11 : specialFiber ideal(x,y,z)
```

```
      QQ[w ..w ]
      0 2
o11 = -----
      w w
      0 1
```

```
o11 : QuotientRing
```

例外集合は斉次座標 w_0, w_1, w_2 を持つ射影平面 \mathbb{P}^2 の中で

$$w_0 w_1 = 1$$

で定義されることが分かった。これより、例外集合は2つの射影直線が1点で直交していることが分かる。

演習

1. A_3 特異点、 D_4 特異点で同様の計算を試みよう。
2. 時間が余った人は、「[Macaulay2による計算代数幾何](#)」を見て、いろいろな計算を試してみよう。今後もM2を使う可能性のある人は、5.1章「関数を作ろう」を読んで、関数の作り方を学習しよう。